

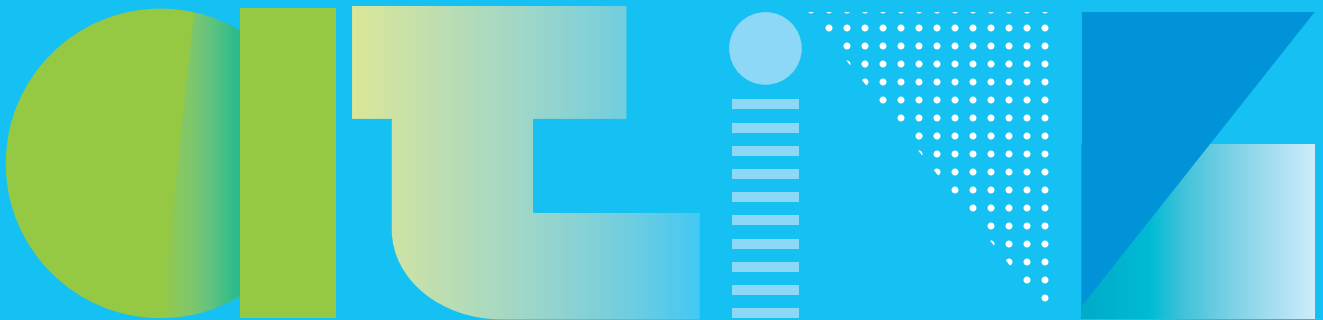
広島大学

情報科学部

コーオプ教育

プログラム

Cooperative Education Guide



学びを社会で、 経験を未来へ

国立大学初 コーオペ教育プログラム

広島大学情報科学部ではAI研究の進展に対応するため、学部カリキュラムを「計算機科学」「データ科学」「知能科学」の3つの主専攻プログラム制に再編し、「基礎」「融合」「実践」の3つの履修モデルを導入しています。

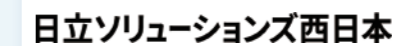
特に「実践履修モデル」では産学連携による長期企業派遣型の教育を行っています。

学生が大学に在籍しながら企業での実務を経験する「コーオペ教育 (Cooperative Education)」を採用しており、講義で学んだ理論を実社会で応用しながらスキルを磨くことが可能です。

このようなデジタル分野での正規課程としてのコーオペ教育は、国立大学では初の試みです。

未来のデジタル人材育成に向けて、広島大学は理論と実践を統合した新たな教育モデルを提供し続けていきます。

参加企業 (50音順)

 **中国電力**

学部長挨拶



情報科学部長
土肥 正

広島大学情報科学部は、コンピュータサイエンスとデータサイエンスを融合した教育拠点として、2018年4月に開設されました。その後、AI研究の進展や学生の多様なキャリア形成に対応するため、2022年度から「3プログラム×3履修モデル制」による新たなカリキュラムを導入しました。

特に注目すべきは、「実践履修モデル」における「コーオペ教育 (Cooperative Education)」の採用です。この教育プログラムは、学生を長期間にわたり企業へ派遣し、在学中に実践的なトレーニングを行う産学連携教育の一環で、国立大学としてデジタル分野で初めて正規課程として導入しました。情報科学部では、これを「長期フィールドワーク」という講義科目として位置づけ、学生が3年次と4年次のそれぞれで4か月間、企業に有償で勤務しながら実務経験を積み仕組みを提供しています。

また、企業実習を終えた学生たちが自身の成長や学びを振り返り、実習先企業からフィードバックを受ける「成果報告会」も実施しています。このような取り組みは、これまでの高等教育にはない新たな挑戦であり、多くの方々からのご意見や評価を基に、地元企業をはじめとする産業界との連携をさらに強化していきたいと考えています。

企業で実践的なスキルを磨くコーオペ教育

| コーオペ教育の特徴

コーオペ教育 (Cooperative Education) は、学校での学びと職場での実践的な経験を組み合わせた教育プログラムのことです。このプログラムでは、学生が学校で学ぶ理論や知識を実際の職場環境で活かし、実務経験を積むことができます。特に大学や専門学校で広く取り入れられており、学業とキャリアの橋渡しをする役割を果たします。

■ 4つの特徴

1 実践的な学び

学生は、大学で学んだ理論やスキルを就業体験で応用します。これにより、学んだことを実践で試し、自分の進むべき道を具体的にイメージできます。



実務経験を重ねていくうちに、大学での学びが社会でどのように活きるかを理解できます。特にシステム開発業務では、講義で培ったプログラミングスキルが大変役立ちました。

2 有償のインターンシップ

多くの場合、有償の仕事として行われるため、学びながら収入を得ることが可能です。これが通常のインターンシップとの違いの一つです。



企業や社会の一助となりながら報酬を得ることができ、経済的に大きな支えとなります。また、報酬に見合った成果を求められる環境で、緊張感を持って業務に向き合えます。

大学での
専門教育

学業と
キャリアの
橋渡し

企業での
実務経験

3 学業との両立

大学と企業の間でスケジュールが調整されており、学生が無理なく学びと就業体験を並行して行えます。



講義を受講する期間と長期フィールドワーク期間が明確に分かれており、それぞれの活動に集中できました。また、万一期間が重なっても、オンデマンド型講義を受講できるので助かります。

4 ネットワーキング

学生は企業での経験を通じて、業界の人々との人脈を築くことができます。これにより、卒業後の就職活動にも有利になります。



私が派遣された企業では、派遣先と同じ業界内にとどまらず、関連するベンダー企業やさまざまな業界の地元企業の方と交流する機会があり、自身の見識を広げることができました。

| 学生・企業のメリット

コーオペ教育は、企業と学生双方にメリットがある仕組みであり、長期的には人材の質の向上や企業価値の向上につながる効果が期待できます。実際にコーオペ教育に参加した学生と、参画した企業担当者からのコメントをご紹介します。

■ 学生のメリット

◆ キャリア形成の準備

学生は職場での経験を通じて、実際の業務や職場文化を理解できるため、卒業後の就職やキャリア選択に役立ちます。



3~4年次に参加した長期フィールドワークでは、入学当初から関心を持っていた職業に近い業務を実際に経験。自分が本当に向き合いたい業務なのか、将来やりたいことは何なのかを確かめることができました。

◆ 履歴書に書ける実務経験

就職の際、企業は実務経験を重視することが多く、コーオペ教育プログラムはその点で学生に大きなアドバンテージを与えます。

◆ 給与の支給

多くのプログラムが有償であるため、学費や生活費の補助になります。

■ 企業のメリット

◆ チームや従業員への刺激

若い学生がチームに参加することで、既存の従業員にも新たな刺激や学びの機会が生まれ、職場の活性化につながる場合があります。



派遣学生が業務に加入することで、社員同士のコミュニケーションが活性化しました。また、通常は指導する立場にない若手社員が学生を指導する経験は、彼ら自身の成長を促す良い機会になったと思います。

◆ 社会的責任の実現

企業が学生に学びの場を提供することで、地域社会や教育への貢献を果たせます。これにより、CSR(企業の社会的責任)活動の一環としても評価されます。



企業活動は人々の支えがあってこそ成り立つものです。コーオペ教育に参画することは、専門的なスキルを持つ次世代の人材育成につながり、将来的には地元の産業界の活性化に貢献できると考えています。

◆ 将来の人材の発掘と育成

コーオペ教育プログラムを通じて、企業は学生の能力、適性、働き方を直接観察する機会を得ます。これにより、卒業後の採用に適した人材を早期に見つけ、育成することができます。

◆ 採用コストの削減

コーオペ教育プログラムに参加した学生を採用する場合、新しい候補者を外部から探す必要がなくなり、採用活動にかかるコストを削減できます。また、既に企業文化に慣れているため、オンボーディング期間も短縮できます。

◆ 企業ブランドの向上

コーオペ教育プログラムを通じて教育機関と連携することで、企業は「教育と社会貢献に積極的な会社」というポジティブなイメージを築くことができます。これにより、学生だけでなく、潜在的な従業員や顧客にも良い印象を与えられます。

◆ 即戦力としての実務経験の提供

学生に実務経験を与えることで、彼らが現場で直面する課題に対応できるスキルを身につけます。結果として、コーオペ教育プログラム終了後に採用する場合、即戦力として期待できる人材を確保できます。

◆ 新しいアイデアや視点の導入

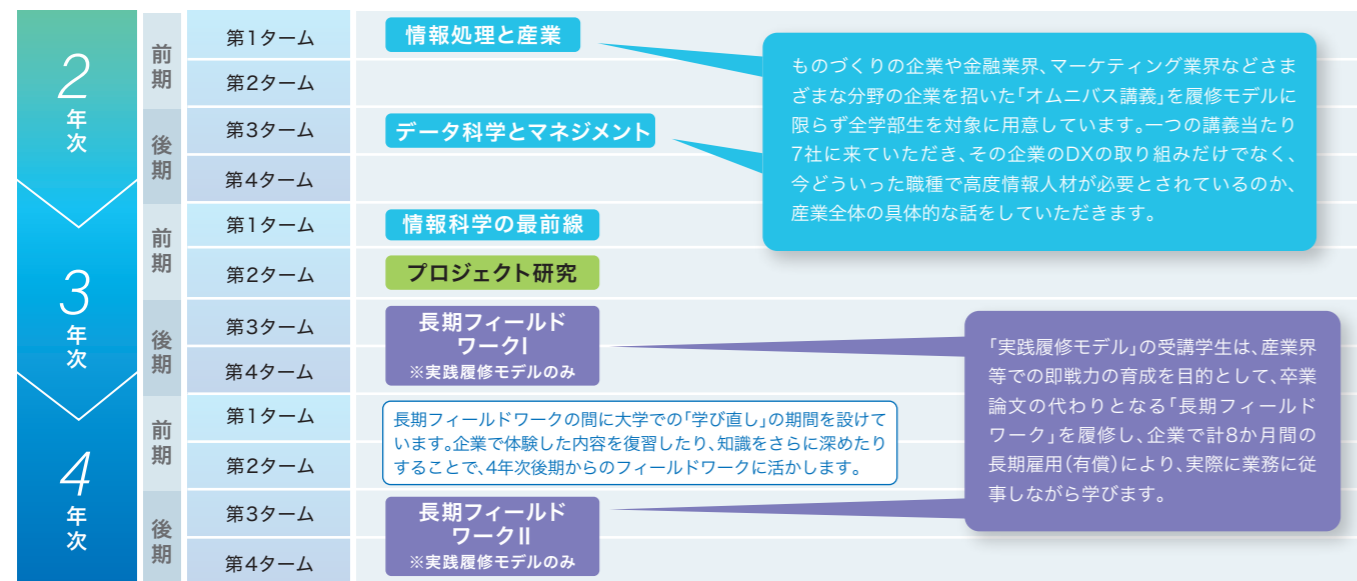
学生は最新の教育を受けており、新しい技術や考え方をもち込む可能性があります。これにより、企業のイノベーションや問題解決の促進が期待できます。

広島大学情報科学部のコーオプ教育

情報科学部のコーオプ教育は、国立大学としては初めてとなる国際標準の産学協働教育を目指すグローバルコーオプ教育※1です。広島大学は、世界の大学・企業と連携して「コーオプ教育を含むあらゆる仕事統合型教育」の推進を図るWACE※2に、教育機関正会員として参画しています。その理念・ビジョンのもと、世界の大学と伍してグローバルコーオプ教育を推進していきます。

▶ 実践・実務科目の流れ

情報科学部では、コーオプ教育として6つの実践・実務科目を提供しています。中でも「長期フィールドワーク」は、計8か月もの間、実際に企業で勤務する特徴的な取り組みです。



※1…グローバルコーオプ教育(Glocal Cooperative Education)は、グローバル企業において長期の雇用で、実際に業務に従事しながら実践的に学ぶ大学での教育と学外での就業体験学習を組み合わせた大学主導型の正課教育プログラム。
※2…WACE(World Association for Co-operative and Work Integrated Education, 世界産学連携教育協会)は、カナダ(オンタリオ州)Waterlooに本部を置き、世界52カ国、約1,000の教育機関、企業、団体や個人の会員からなる非営利法人。教育機関と産業界が協働して実施する「コーオプ教育を含むあらゆる仕事統合型教育」(CWIE = Cooperative & Work-integrated Education)の展開、拡大、ブランディングを行う唯一の国際機関。

▶ 授業概要

情報処理と産業

企業によるオムニバス講義で、各企業で実践している先進的なDXの取り組みを紹介します。情報科学部の学問分野がどのように産業界や社会で活用されているかについて学び、さまざまな産業において加速しているDXの実際を理解できます。また、情報科学の知識やスキルを活かす方法について議論します。

データ科学とマネジメント

企業及び官公庁から講師を招き、各企業等の事例を紹介します。さまざまな産業において加速しているDXの実際を学び、データ科学の知識やマネジメントスキルを活かす方法を議論・検討します。

情報科学の最前線

我が国を代表する著名な研究者を招き、情報科学の最前線で行われている研究動向について学びます。実社会の問題や実データに基づいた講義内容で、アカデミズムの観点から実務問題を考えます。

プロジェクト研究

夏季休業中の連続する5日間を利用し、企業で実施される研究・開発プロジェクトに参加するインターンシップ型講義です。実際の企業で求められている多岐にわたる能力の獲得を目指します。

長期フィールドワークI

約4か月間企業の業務に有償で従事します。大学で学んだ知識やスキルを企業で実践し、最後は成果報告会で発表を行います。

長期フィールドワークII

約4か月間長期フィールドワークIと同じ企業の業務に有償で従事して、実習を重ねることで、応用力や実践力の向上を目指します。最後は成果報告会で発表を行います。



学生経験談

— 長期フィールドワーク参加から大学院進学・就職まで —

長期フィールドワークに参加した学生に、キャリア選択に至るまでの過程についてインタビュー。派遣先での学びや、学び直し期間の活用方法など、それぞれの成長ストーリーをご紹介します。



4年 吉田 陽哉 さん
プログラム: データ科学プログラム
派遣先: 復建調査設計株式会社



4年 堤 礼斗 さん
プログラム: 知能科学プログラム
派遣先: 株式会社ドリーム・アーツ

長期フィールドワークI

社内外のDX推進を行う部署に所属し、VRを活用した防災体験システムの作成に携わりました。発注者との打合せに同席し全体像を把握した上で、さまざまな制約の中、担当した業務を無駄なく進めるために目的意識が重要であると学びました。

学び直し期間

派遣先での学びを実践する場として、アルバイト先で業務システムを自ら提案・作成しました。業務上の課題に対して社員や同僚へのヒアリングで要望を把握し、システムの全体像とメリットを示した資料で周囲の理解を得ながら取り組みました。

長期フィールドワークII

社員20名を対象にした生成AI勉強会の主担当を任せられ、企画から報告まで一連の流れを完遂しました。最も苦労した企画段階では、まず勉強会で目指すゴールを設定し、それを達成するためのストーリーに沿った構成を設計しました。また、各パートにおける目的を明確にした上で担当する社員の方に伝えることを意識しました。

進路

実務経験で得た学びを反映させた研究を行いたいと考え、大学院進学を志しました。大学院では、高度な理論の習得とともに根拠を積み重ねる研究活動を通じて、論理的思考力の深化を目指します。長期フィールドワークで培った常に目的を意識する姿勢を貫き、研究に挑戦したいと思います。

大学院へ進学

長期フィールドワークI

実際に社内で使われるツールや、モバイルアプリの一部機能の開発に励みました。ITエンジニアに必要な技術力はもちろん、開発に携わるメンバーが読むことを想定し、理解しやすいコード・ドキュメントを書くことの重要性を学びました。

学び直し期間

長期フィールドワークIで培った思考力・技術力を活かし、大学の研究所でWebアプリ開発に取り組みました。チームのリーダーを引き継ぎ、自身が退職した後でも保守・運用しやすくなるように、既存のコードや体制を整え、開発を進めました。

長期フィールドワークII

自社製品のサービスを常時提供しながら管理できる仕組み「無停止運用」を実現するプロジェクトに携わりました。サービス全体に影響を与えるため、調査・検証・検討を重ね、実装に至りました。業務を進めていく中で、プロフェッショナルとして仕事をやる際に持つべき視点を学びました。

進路

卒業後はITエンジニアとして企業に就職します。就職活動では、実務経験を積めたことが強みになりました。この経験を活かし、就職後も積極的に業務に取り組み、早期に社員の方々から信頼を得て活躍できるITエンジニアになれるよう専門技術や実務スキルの研鑽に励みます。

ITエンジニアとして
企業へ就職

派遣先の担当者と学生が語る 長期フィールドワークのリアル



MDI & IT本部
シニア・スペシャリスト
大富 康弘 様

3年 宮本 直哉 さん

4年 紅床 佑哉 さん

MAXプロジェクト室
シニア・スペシャリスト
井上 雅史 様

長期フィールドワークに参加した広島大学の学生と、派遣先として学生を受け入れられたマツダ株式会社のご担当者に、実際の取り組み内容や参加してみて感じたことを語っていただきました。

▶ 派遣先ではどのチームに 配属されましたか？

紅床 マツダのAI・IT分野に携わるチームに配属され、広島大学で学んだデータ分析を活用する機会を得ました。今振り返っても、自身の志向と親和性があり、充実した期間だったと感じています。

宮本 僕は大学で学ぶ機会が少ないセキュリティ分野に実務として関わられる、ITセキュリティチームに加わりました。興味のある分野で従事できることにワクワクしましたが、同時に「きちんと成果を出さなくては」と気が引き締まりました。有償のインターンシップならではの緊張感がありましたね。

大富 近年、世間では多くの企業がサイバー攻撃の脅威にさらされています。こうした社会的背景を受け、当社でもセキュリティ対策の強化を進めています。長期フィールドワークでは、ITセキュリティ



分野の次世代人材育成に貢献できればと考えています。

井上 地元の広島大学が進める本プログラムに参画することは、広島の一企業として地域貢献や社会的責任を果たすことにつながると感じ、積極的に手を挙げました。今年は4人の学生を受け入れ、学びを実践する場を提供しています。

▶ どういった業務を任されましたか？

宮本 社内セキュリティシステムの運用・改善業務を任されました。中でも印象的だったのはシステムの脆弱性を調査する業務です。脆弱性とは「システムの欠陥」のようなもので、放置すると攻撃を受けるリスクがあります。私はマツダに関連しそうな脆弱性情報を収集・整理し、提示する役割を担いました。

大富 派遣から1〜2か月が経つ頃には業務にも慣れ、必要な情報を自ら収集し、1人で主体的に対応できるようになり、周りの社員と同じくらい活躍してくれました。初めての経験で、難しいことも多かったのではないですか。

宮本 マツダで使用されているソフトウェアのOSや製品のメーカーなど機器の仕様を理解するのは大変でしたね。来年の長期フィールドワークIIに向け、学び直し期間にはセキュリティやネットワークの知識を習得したり、海外のサイバー攻撃事例の記事を読んだりして自分なりにスキルを高めたいと思います。

紅床 学び直し期間は短いので、何をやるのか事前に計画立てて



おくのがおすすめです。私はこの期間に、研究室で機械学習に関する知識を習得したほか、経営者視点や高度なIT知識・スキルが求められる国家資格「ITストラテジスト」にも挑戦しました。

井上 それはすごい。紅床さんには、実際に社内を進めているAIエージェントの開発プロジェクトに参加してもらいましたよね。

紅床 はい、社内データを学習した既存のAIエージェントを複数に拡張させ、業務で活用できるかどうか検証を積み重ねました。そのために、社員の課題をヒアリングしたり、AI同士でディスカッションさせたりして、精度や実用性を確かめました。

井上 AIは近年進化が著しい分野です。皆さんには、開発現場やユーザーのリアルな課題を解決する業務を通じて、AIの応用可能性を学んでほしいと願います。紅床さんが携わったシステムは今後さらに検証を重ねられ、いずれ社内に導入されるでしょう。



▶ お仕事での学生の様子をお聞かせください。

井上 当社では学生に「気づき」と「思考」を促すべく、毎日学生に日報を提出してもらったり、週に1回、指導社員と学生の個別ミーティングを実施したりしています。特に紅床さんは吸収が早く、ミーティングで伝えたアドバイスを、翌週にはしっかりと自身の中で落とし込んで資料を作成してきていましたね。日に日にアウトプットの質が上がり、成長を感じました。私以外の指導社員にも相談する姿をよく見かけましたが、どんな話をしていたのですか。

紅床 自分の作業方針や認識が誤っていないかを確認していました。長期フィールドワークIでは自分1人で考え込み、作業を進めた結果、認識違いからやり直しになってしまったことがありました。その反省を踏まえ、相談する機会を自発的に設けるよう心掛けたのです。

大富 紅床さん以外の皆さんも、実行と改善を繰り返す「PDCA」の習慣化に積極的に取り組んでくれていました。また、仕事を共にする中で、メモを取る習慣や報連相を大切にしている姿勢が身についたようで、学生たちの成長の早さを感じています。

宮本 気軽に相談できる雰囲気があったおかげです。チームで連携する業務が多いこともあり、社員同士が縦横のつながりを大切にしていると感じました。

紅床 同感です。一緒に昼食をとったり雑談したりと、私たちがリラックスできる環境づくりをしてくださり感謝しています。

▶ 学生を受け入れることで、 社内にも変化がありましたか？



大富 派遣学生が業務に携わったことで、学生ならではの新鮮な視点から業務改善の提案があり、既存のやり方を見つめ直す良いきっかけになりました。しかし、それ以上に学生の存在が社員たちへの良い刺激になりましたね。

井上 そうですね。例えば、私たちのチームは比較的少人数でのメンバー構成。そのため、普段指導する立場に立たない若手社員にとっては、今回のプログラムが後輩を指導する初めての経験になります。学生に指導や助言をする中で、自身の業務の目的や役割をあらためて考える機会につながり、社員にとっても良い学びになったのではないのでしょうか。

大富 私のチームでは、宮本さんの取り組み内容や指導について社員で話し合うことが、チーム内のコミュニケーション活性化につながりました。長期フィールドワークは学生が成長する場であるとともに、私たち企業側が成長できる場でもあると実感しています。

▶ 今後、長期フィールドワークを通して得た スキルや経験をどのように活かしたいですか？

宮本 セキュリティ分野の専門的なスキルを磨き、実務経験を積めたことは大きな成長だと感じます。さらに、チーム内での報連相や自己の体調管理、時間管理など社会人スキルを高められました。長期フィールドワークIIに向けて、日々PDCAサイクルを自分で回すことを意識して過ごしたいです。

紅床 私は就職活動でマツダから内定をいただくことができました。本プログラムで、以前から興味があったデータサイエンティストに近い業務に携わったことで、自分が本当にやりたいことやキャリア像が明確になったと感じます。

井上 今回、私たちマツダ社員にも多くの気づきがありました。この経験を踏まえ、これからは社員同士が成長を促す体制や、個人の強みを尊重できる体制づくりも検討していきたいと思っています。

大富 学生を見ていると、専門分野のスキルだけでなく、社会人スキルがこれほど伸びるのかと驚きました。長期フィールドワークに興味を持った方はぜひ挑戦してみてください。



学生4人と担当者2人

TOPICS

第二回長期フィールドワーク成果報告会

2026年2月16日、広島大学中央図書館ライブラリーホールにて、長期フィールドワークに参加した学生による発表の場、成果報告会が開催されました。初の開催となった昨年度に引き続き、今回は3年生11人、4年生7人の計18人がそれぞれの経験や学びを発表しました。



報告会は鈴木由美子理事・副学長(教育・平和担当)の挨拶で始まり、続いて土肥正学部長がコーオプ教育プログラムの意義や概要を紹介しました。会場には派遣先企業の担当者や広島大学教員、学生ら約150人が参加しました。

学生は発表の中で、従事期間内の取り組み内容や学び、気づきを共有。3年生は専門的スキルだけでなく、社会人スキルの習得についても触れました。一方、2度目の発表となる4年生は長期フィールドワークI参加時からの成長や取り組みの違いに言及し、学び直し期間を経て、長期フィールドワークIIを終えるまでの期間を有意義に活用した様子です。企業担当者からは「当社でも生成AIやノーコードツールを活用したDX推進をしていきたい」「今後の学生の活躍に期待している」と前向きな講評が寄せられました。閉会挨拶では4月から新学部長に就任する永原正章教授が、成長して帰ってきた学生の姿に対する喜びと、企業への感謝の意を述べました。

◆ 参画企業からのコメント(50音順)

株式会社エネコム

業種 情報・通信業

DX事業推進本部
社内DX推進部長
松永 貴司様

当社通信サービスを支える社内システム開発に能動的に取り組み、課題を丁寧に整理しながら改善を重ねる姿が印象的でした。学生の方の新たな視点が社内の良い刺激を与え、技術習得や情報共有への意識向上に良い効果をもたらしていただきました。

所在地 広島県広島市中区大手町

株式会社サタケ

業種 製造業

技術本部 光選グループ
デジタル技術研究チーム チームリーダー
宮本 知幸様

データを活用したサービスの提案プロジェクトへのサポートを期待して参画。フレームワークを軸に事業理解を深めてデータ分析に取り組み、実用的な成果を追求する学生の姿勢が印象的でした。学生と企業の双方にとって有意義な取り組みであると確信しました。

所在地 広島県東広島市西条西本町

中国電力株式会社

業種 電気・ガス業

デジタルイノベーション本部
DX推進プロジェクト長
鮎川 誠様

学生の新鮮かつ柔軟な発想を、当社のDX加速に活かすため参画しています。学生はAI・ITツールを活用した業務自動化や研修の実施等、積極的に取り組み、社員と同様に活躍してくれました。学生にとっては実践的な学びの場、我々にとっては組織を動かすよい刺激となっています。

所在地 広島県広島市中区小町

株式会社 ドリーム・アーツ

業種 情報・通信業

取締役執行役員CTO
石田 健亮様

長期フィールドワークI・IIで学生を受け入れ、彼らの成長と社内への刺激を実感しました。期間中に異なる領域の経験や社内でも重要なプロジェクトへの挑戦を通じて、多角的な視点で学びを得て、日々振り返りと改善のサイクルを回す姿勢が印象的でした。

所在地 広島県広島市中区大手町

株式会社 日立ソリューションズ西日本

業種 情報・通信業

産業デジタルイノベーション事業部
ビジネストランスフォーメーション本部 本部長
森平 也寸志様

形式的な職場体験にとどまらず、当社社員として積極的に実務に取り組み、モノづくりを通じて仕事の楽しさを感じることができたと思います。次年度は品質確保や生産性向上(AI活用等)など重要なテーマにも挑戦し、仕事の質にこだわる経験を積むことを期待しています。

所在地 広島県広島市中区八丁堀

株式会社 ひろぎんホールディングス

業種 金融業

執行役員 DX統括部長
石原 和幸様

学生にはアプリの内製化や銀行内の業務データを用いた分析に従事する中で、新しいビジネスの可能性を考えてもらいました。私たちにとっても、学生が持つ新しい視点や柔軟な発想に触れられたのは大きな刺激です。今後も大学と協働し、優秀なデジタル人材を育成します。

所在地 広島県広島市中区紙屋町

福山通運株式会社

業種 貨物自動車運送業

情報システム部 部長
日向 宏之様

学生が情報システム部の業務を通じ、IT技術の活用や実務への応用を学びながら、課題解決力・コミュニケーション力を磨く機会を提供したいと考えました。また、未来を担う人材として成長し、社会に貢献するきっかけを得てほしいと期待しています。

所在地 広島県福山市東深津町

復建調査設計株式会社

業種 土木建築サービス業

執行役員
事業推進本部副本部長 兼 DX推進センター長
浅津 直樹様

DX推進に不可欠なICT人材の育成と大学との連携強化を目的に参画しました。学生が生成AIを積極的に活用し、社会インフラ関連のプロジェクトで貢献する姿には感心しました。引き続き実践を通じて成長してくれることを期待しています。

所在地 広島県広島市東区光町

マイクロンメモリ ジャパン株式会社

業種 半導体

人事採用本部 マネージャー
清水 美咲様

8か月間の長期間だからこそ、短期では得られない深い経験を企業学生双方が得られたと感じています。試行錯誤を重ねて課題に向き合い、成長していく学生の姿は企業にとっても多くの学びがあります。本取り組みが、将来のキャリア形成への確かな経験になると期待しています。

所在地 広島県東広島市

マツダ株式会社

業種 乗用車の製造、
乗用車・トラックの販売など

MDI & IT本部 グローバルIT業務部
部長
田中 政雄様

学生が真剣に学ぶ姿は、職場の活性化や指導に関わる社員の成長にもつながっています。企業での実践を通じて発見した課題を大学に持ち帰り、研究し、再び実践につなげる循環が未来のDX人材を育み、地域産業の発展に寄与することを期待しています。

所在地 広島県安芸郡府中町

三菱電機株式会社

業種 電気機械器具製造業

福山製作所 生産システム推進部
e生産技術革新課 課長
梶谷 俊治様

DX人材育成に取り組む当社の想いと合致しており、学びと実践をつなぎ社会で活躍する素地を築く有意義な施策と感じています。実習では学生が楽しみながら高度な課題に挑み、着実に成果を上げる姿が印象的でした。今後の更なる飛躍を心より期待しています。

所在地 広島県福山市緑町



COMPACT Education

長期フィールドワークへの参画をご希望の場合は
下記までご連絡ください。

お問い合わせ

広島大学情報科学部
東広島地区運営支援部 工学系総括支援室(学士課程担当)

TEL 082-424-7611

MAIL kou-gaku-gakubu@office.hiroshima-u.ac.jp

学部サイトは
こちら

